

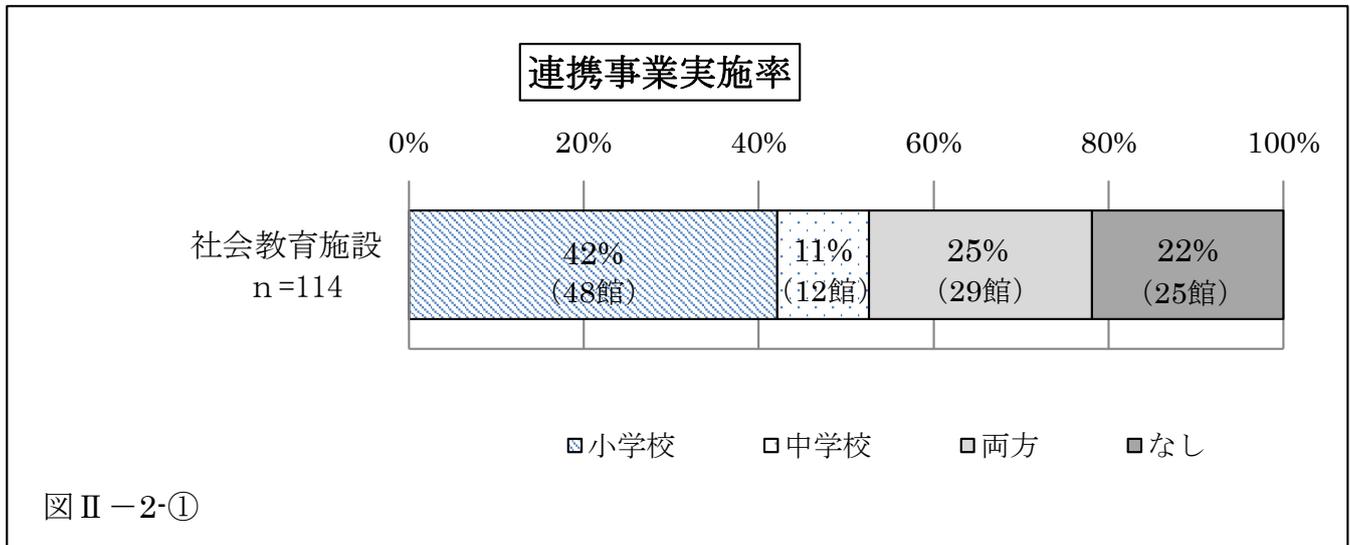
2 社会教育施設対象事例調査

(1) 回収状況

表Ⅱ-2-① 社会教育施設対象事例調査回収率

対 象	調査数	回答数	回収率
社会教育施設	341	114	33.4%

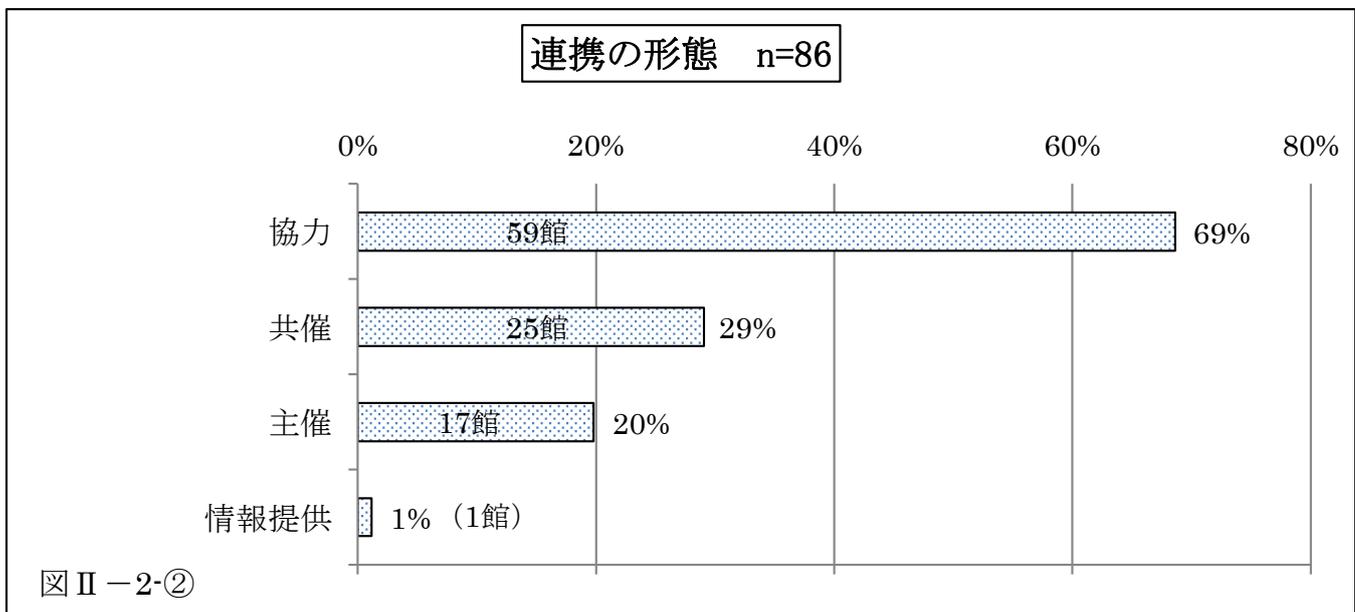
学校との連携の実態



〔社会教育施設〕 n = 114

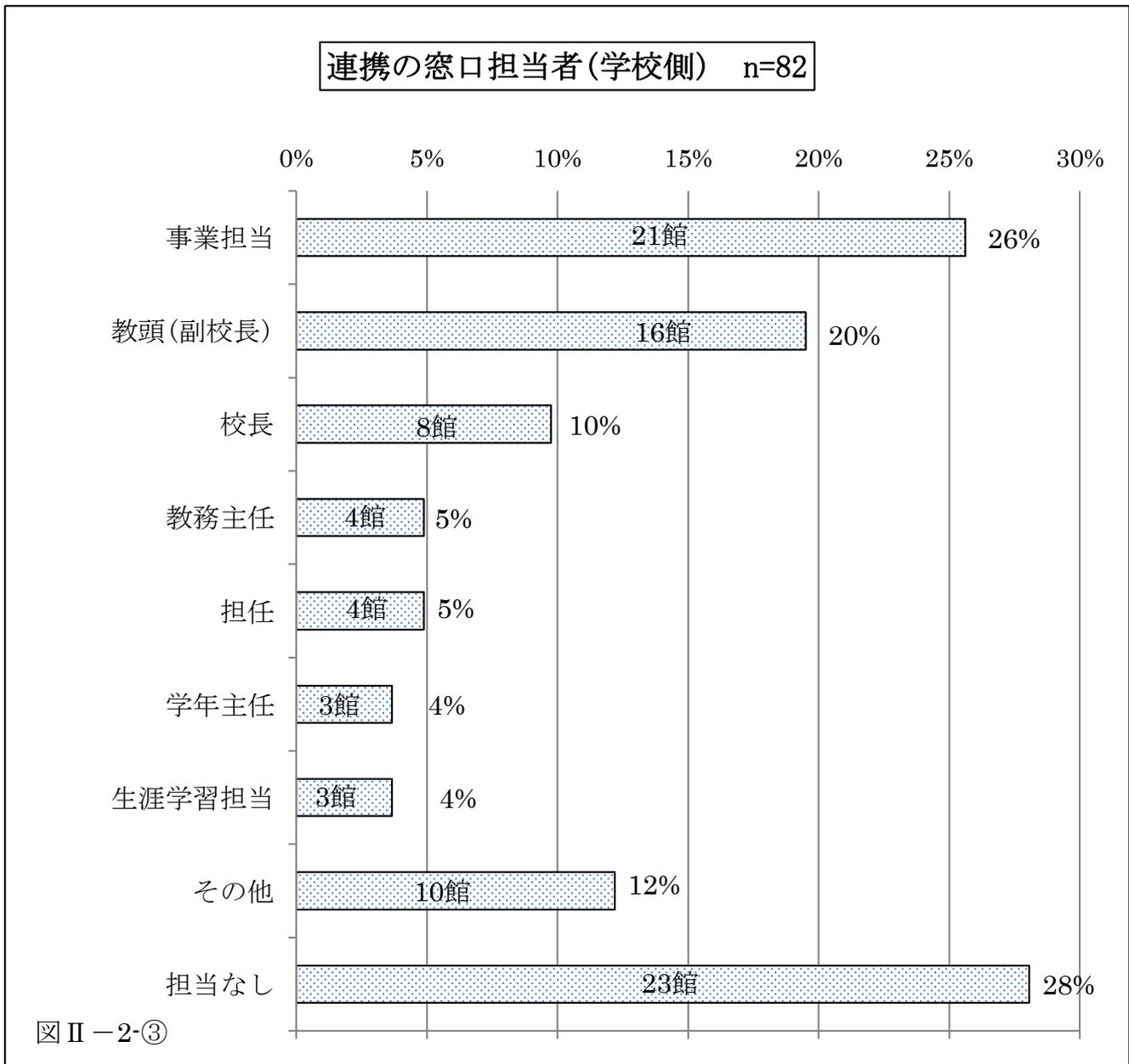
各小・中学校との連携事業を実施しているのは、全体の78%（89館）である。一番多いのは、「小学校」42%（48館）で、続いて「小・中学校両方」25%（29館）、「中学校」11%（12館）であった。連携事業を「実施していない」との回答が22%（25館）あった。

① 学校との連携の形態等



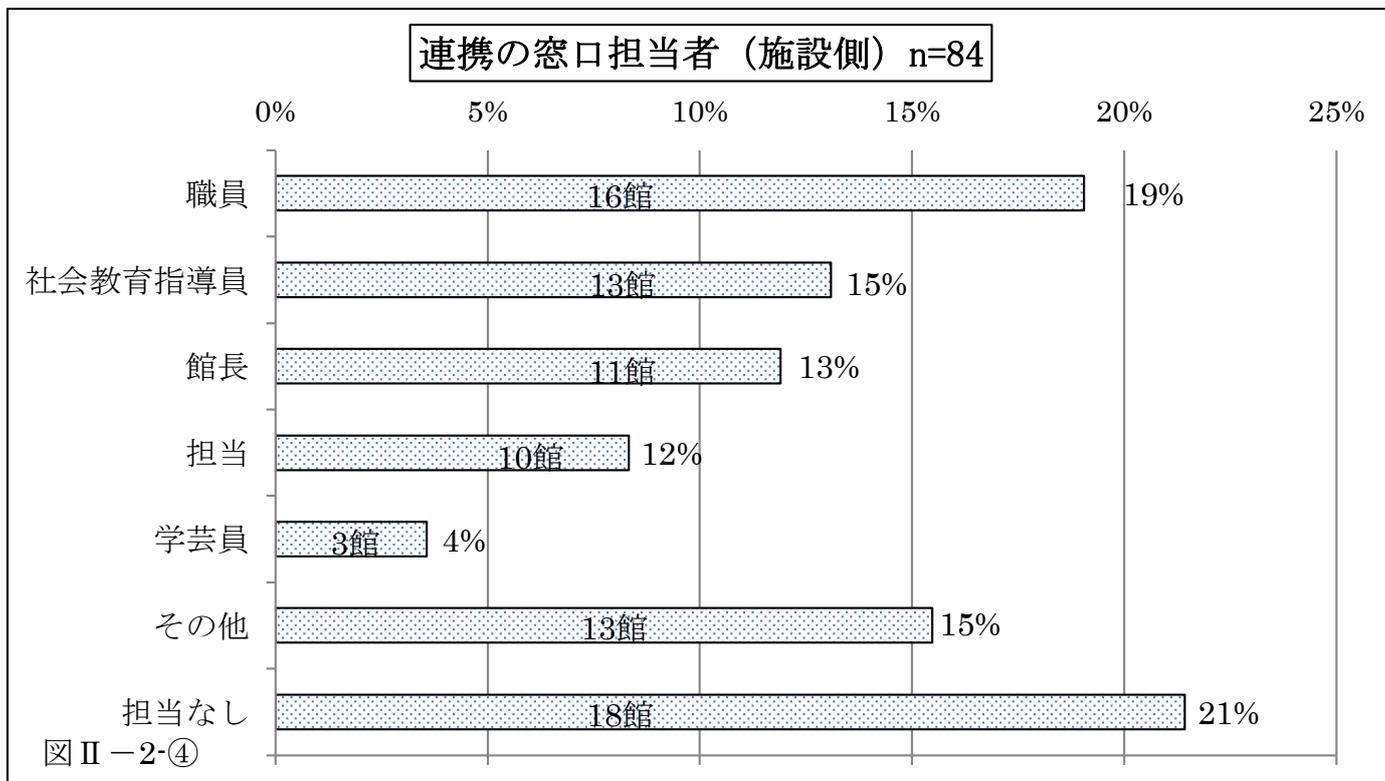
〔社会教育施設〕 n = 86

連携の形態では、「協力」が最も多く59館（69%）である。続いて、「共催」25館（29%）、「主催」17館（20%）、「情報提供」1館（1%）であった。



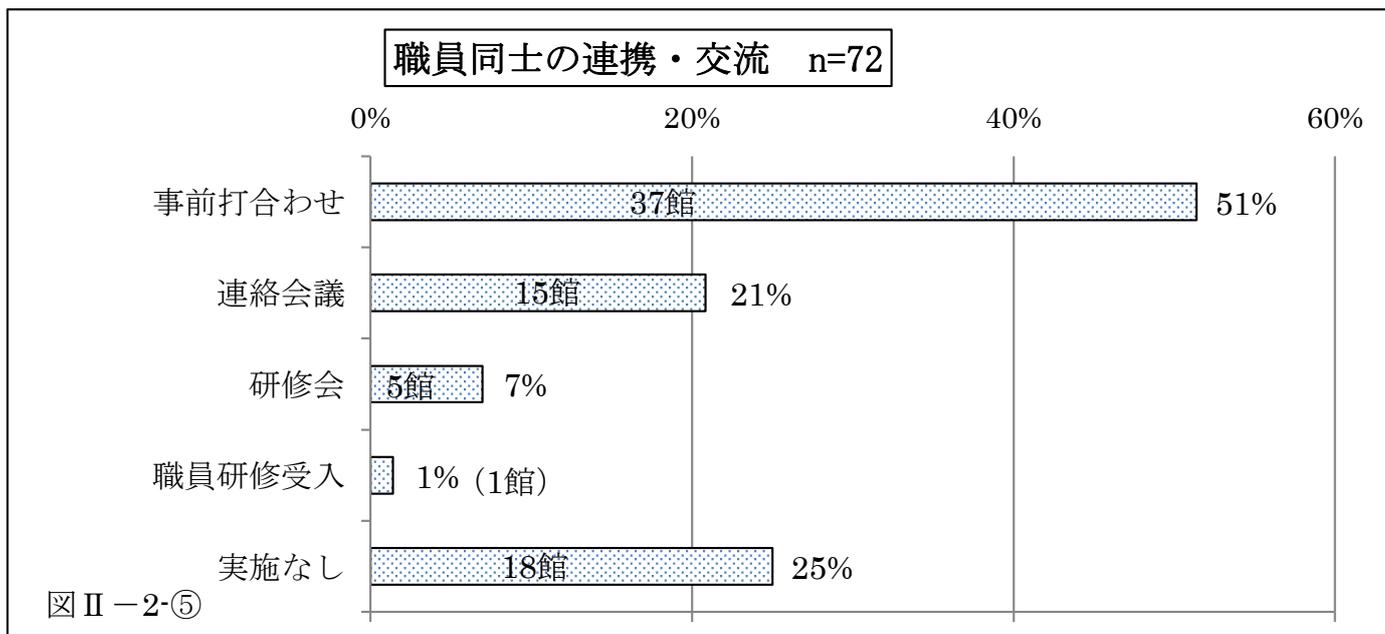
〔社会教育施設〕 n = 82

各施設から回答のあった学校側の連携窓口では、「事業担当」21館（26%）で最も多く、順に「教頭（副校長）」16館（20%）、「校長」8館（10%）、「教務主任」と「担任」が同数の4館（5%）、「学年主任」と「生涯学習担当」も同数で3館（4%）であった。その他では、「養護教諭」「図書館担当」「学校支援コーディネーター」「PTA役員」が挙げられた。「担当なし」との回答が23館（28%）あり、各施設では学校側の担当者がいないと認識している現状がうかがえる。



〔社会教育施設〕 n = 84

各施設側の連携窓口では、「職員」が16館（19%）で最も多く、順に「社会教育指導員」13館（15%）、「館長」11館（13%）、「担当」10館（12%）、「学芸員」3館（4%）であった。「その他」では、「社会教育主事」「臨時職員」「課長補佐」「事務局」「普及資料課」「貸本係」「奉仕係」「文化課文化財係」「女性青少年係」「市役所総務課」「ボランティア」があった。「担当なし」との回答が18館（21%）あり、担当者を設けていない施設がある中、「学校支援室担当」や「学校支援スタッフ」などの連携のための担当を特別に設けている施設もあった。



〔社会教育施設〕 n = 72

職員同士の連携・交流では、「事前打合せ」の実施が37館（51%）で最も多く、順に「連絡会議」の実施が15館（21%）、「研修会」の実施が5館（7%）、「職員研修受入」が1館（1%）であった。「実施なし」との回答が18館（25%）あった。

② 具体的な事例内容

社会教育施設と近隣の学校との連携事例については、書体をゴシック体に変えて記述する。

表Ⅱ-2-②

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
1	県立	施設で	博物館	・社会科の教科学習の一環として、3,4年生を対象に実施 (おじいさん、おばあさんが子どもの頃の道具を実際に見たり触れたり、話を聞いたりして学習を進めた。例えば、教科書で扱われる洗濯板・たらいのほかにも、糸車やコテ、火のし、ミシンなど衣服に関する展示資料を解説員が解説したり、わらぐつ、ぞうり、わらじなどを実際に身につけたり、体験したりした。)	博物館の資料を実際に見ながら解説を聞くことができるので、調べ学習の一環として有効である。オプションで「石臼を挽く」や「蓄音機の音を聴く」などの体験活動も用意されているため、導入・調べ学習・まとめの学習など、見学内容を検討することで、どの段階の学習にも対応できる。	人気のテーマ展のために年度当初に予約をとる学校もあり、日程があわないと見学できないケースもある。また、オプションの体験活動を知らずに来館し、こんな体験がしたいと要望してくる先生がいるなど、体験学習のPR不足もうかがえる。(小教研や総合教育センターの基礎研修ではPRさせていただいているが参加者以外には伝わっていないケースが多いのが実情だと思われる。)
2	県立	施設で	博物館	・中学生の社会体験活動(職場体験)として、主に中学2年生を対象に実施 (解説員業務の補助体験として、解説員とともに館内での接客業務にあたり、学芸員業務の補助として資料整理を手伝ったり、展示・講座資料の作成を体験してもらったりしている。)	博物館を見学したことはあっても、博物館で働く人たちがどのような業務を行っているのかわからない子どもたちはとても多い。そんな子どもたちに博物館の業務をいろいろ体験してもらうことで、博物館の意義について理解を深めてもらえる。また、生徒にとっても、興味を持っていた博物館業務の様々な面を知ることができるため、今後の進路について考え、目標を新たに持つ場になるようである。	企画展など大きな行事を抱えている時期には、近隣の学校であっても受け入れができないことがある。興味を持ってくれる生徒を受け入れられないのは残念であるが、業務の性質上改善策がないのが実情である。
3	県立	施設で	資料館	・県内小学校社会科見学の受入れ		
4	県立	施設で	資料館	・施設見学、勾玉づくり講座		
5	県立	学校で	博物館	・社会科の教科学習の一環として、6年生を対象に実施 (社会科の歴史学習のまとめのとして平安時代のくらしと文化、武士の時代の復習を兼ねて、平安貴族の衣装【十二単】と【鎧(大鎧・当世具足)】の着付け体験と資料の解説を行った。)	実物資料を実際に手にすることで、写真では分からない情報(触感や重量感など)を得て、既習事項の知識と関連づけ、さらに理解を深めることができた。	複数学級を一度に実施した時、衣装の着付け体験の資料が複数あるわけではないため、時間を2時間扱いで確保しても、体験時間は少なくなってしまう。(実施校の感想を聞くとそのデメリットを差し引いても効果の高さを挙げる学校のほうが多い。)
6	県立	学校で	博物館	・理科の教科学習の一環として、主として5,6年生を対象に実施 「流れる水の働き」 5年生の学習単元で流水実験や河川により形成された地形の紹介などを行った。 「大地のつくり」 6年生の学習単元として、那須塩原市での校外学習の支援や各学校での地層のでき方モデルの実験や化石の取り出し実験、栃木県の地層と化石についての講義などを行った。 (平成24年度は近隣の学校1校を対象に2回実施した。)	実地での観察や実験がしにくい地学単元であるが、児童はもとより教員の研修にも役立っている。児童は屋外での地層観察や化石採集に大いに興味をもち、地学への関心を高めていった。	市街地の学校が校外実習に出る場合、時間、交通手段、引率補助、観察指導者の確保などの問題があり、博物館が担えることは実地での観察指導および引率補助である。多くの学校が同様の活動を実施しようとするれば、対応できる数には限界がある。
7	県立	学校で	資料館	・出前講座の実施		
8	県立	学校で	資料館	・出前授業(勾玉づくり)	勾玉づくりを迫体験することにより、古代の歴史や資料館などへの興味・関心・理解を考える機会をつくることができた。	参加人数に対して指導員の数が少なく、細部まで指導を行えないこともある。

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
9	県立	学校で	資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業（出土品を持参して） ・勾玉づくり講座 ・土器・土偶づくり講座 	すべての講座において、実物の出土品に触れてもらい、原始・古代のヒトの生活を身近に感じてもらえる。	当センターは考古学的研究を行う施設であり、学校の歴史教育を行うことを目的としている。勾玉づくり講座、土器づくり講座は、担当教師の理解が得られないと、工作教室となってしまう。
10	県立	その他	博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・理科の教科学習の教材として、学校側に資料貸出しを実施（特に小学校・中学年で使用する民俗資料として「昔の道具」、6年の歴史資料として「種子島銃」「十二単」「鎧」などの貸出しが多い。） 	実物を活用することで当時の人の思いや願いを考えさせるうえで有効であったようである。今回の資料に限らず、実物資料の持つよきは実際に体感できることであるといえる。	各校学習の内容は学年ごとに同じようなので、学習時期もほとんど同じになる。そのため、資料を活用したいと博物館に問い合わせなくても既に他校に貸し出しているような場合もあり、数少ない資料の利用を上手に調整する必要がある。
11	県立	その他	資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡案内（センター付近の史跡と、当該学校周辺の史跡の場合がある。） 		
12	河内	施設で	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・「Mとしよかん祭」などの図書館事業への児童の参加（メインステージでの児童による群読の実施など） ・ボランティア活動（M図書館敷地内の除草作業） 	児童の図書館利用の啓発。人的交流。	担当者が代わった場合の事業の継続。
13	河内	施設で	資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生の職場体験学習の受け入れ（平成24年度は近接している中学校からの受け入れであった。） 	地域の施設というだけでなく、歴史や文化等を身近に感じ、大切にしていこうという思いを持ってもらうことができた。	少人数しか受け入れができなかった。
14	河内	施設で	生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・主催講座「わくわく体験教室」（地区内4小学校の3～5年生を対象に開催する講座。年6回開催。年度当初、講座開催の通知を案内配布と受講児童の取りまとめを学校に依頼。受講決定児童への通知文配布を学校に依頼） 	小学校ではできない体験ができるとともに、地区内4小学校の児童の交流の場を提供。	小学校が4校あるため、日程調整が難しい。
15	河内	施設で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・「Mふるさと教室」（センターで作成した周知チラシを学校を通して配布。工作教室、調理実習等体験教室を実施中。恒例の講座のため、毎年参加する児童も多い。） 	夏休みのサポート講座として、下野教育書道展出品作品を作成する内容を実施。多くの児童が参加した。	ニーズに合った内容の企画。
16	河内	施設で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の小学校の保護者対象に家庭教育セミナーを12回開催（講師には小学校長、副校長に依頼） ・児童（原則3～6年生）対象に「ふるさと教室」を6回開催（会場に小学校校庭、体育館を拝借） 	保護者、先生方と顔つなぎができる。	コミュニティセンターは教育委員会に属していないので先細りになる。
17	河内	施設で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・「Fふるさと教室」の開催 ・「放課後子ども教室」の開催（どちらもF小児童1～6年生を対象） ・PTA運営委員会、PTA各部会の会議等 ・体育祭、文化祭の打合せ会議等 	施設開催の事業やF小学校地域協議会4部会（学校教育支援協議会、地域安全環境協議会、子育て支援部会、広報部会）等の活動とともに、年々充実してきていると思う。	「学校や施設の良い環境作り」「安全確保」「教育活動」等への地域からの支援協力が今後必要であると思う。
18	河内	施設で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後授業 	地域の人々が地域の子どもたちを育成する成果が見られる。	
19	河内	学校で	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・K図書館ボランティアによる、児童への絵本の読み聞かせ、素話を実施 		
20	河内	学校で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭の開催（校庭等） ・文化祭の開催（校庭、体育館等） ・F小学校地域協議会の会議、事業協力等 		

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
21	河内	不明	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書巡回サービス ・学校図希望図書サービス ・学校図書館関係者研修会の開催 ・図書館見学の受け入れ ・社会体験活動の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料の有効活用 ・児童の図書館利用の啓発 	図書以外の資料の有効な活用方法を検討中。
22	上都賀	施設で	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの配布 (公民館において実施する青少年学級向けのチラシを地区内の学校を通じて配布依頼) 	講座の周知が効率的に行える。	
23	上都賀	施設で	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学の受け入れ ・職場体験学習マイチャレンジの受け入れ ・家読図書(小学生向け・中学生向け)セット貸出し 		
24	上都賀	施設で	コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・地区青少年市民会議において、研修会や講演会を実施 ・「各学校だより」を「コミセンだより」配布時に各自治会へ配布 	学校と地域の連携がとれている。	
25	上都賀	学校で	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が ・小学校の学習発表会を参観 ・小学生と給食をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生との世代間交流が深まった。 ・高齢者学級で作成した紙芝居の発表の場となった。 	
26	上都賀	学校で	美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・木版画教室の実施(市内小学校)(外部講師と学芸員が小学校の版画制作の時期に合わせ授業の補助【下絵、彫り、刷り】を行う連携事業) 	平成16年度から実施しており、市内の小中学生を対象にした版画コンクールでもすばらしい作品が出品されている。	市内の小学校の校数が多いため、年間にできる木版画教室の実施回数が限られる。
27	芳賀	施設で	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育特別授業『地球のステージ』(人権教育推進事業【文部科学省委託】が平成23年度に終了し、今年度は講師の桑山先生の貧困・紛争地域で医療活動を通して、その現状や進路に悩む青春時代、自転車で日本一周のエピソードをオリジナルの音楽と映像を交えて講演をいただいた。) 	進路や、人間関係に悩むデリケートな中学生に人と人とのつながりや思いやり等を感じてもらうことができたと思われる。	定期的に継続し、開催していきたい。
28	芳賀	施設で	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・「職場体験等」(中学校の事業としての職場体験学習の受け入れのほか、各小・中学校へ声をかけ、夏休みを利用した司書体験事業を行っている。) 	児童・生徒を通し、学校と図書館の交流が深まるとともに、体験者が図書館への理解を深め、その後、自主的に来館してくれるようになった。	普段の業務をこなしながらの作業となるため、サービスの質を落とさずスタッフの負担を軽減させることが課題。
29	芳賀	施設で	図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・「一日司書」(小学5,6年生を対象に夏休みを利用して一日司書を体験する。) 		
30	芳賀	施設で	資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の社会科見学や遠足等に対応(当館では、二宮尊徳についての解説、館内の案内・説明、さらに隣接する史跡陣屋跡の案内・解説) ・調べ学習に活用(市の社会科読本に二宮尊徳が取り上げられており、学校は調べ学習に活用している。) 	平成24年度は小学校20校(うち市内15校)、市内の中学校1校、市外の高校1校が来館した。子どもたちや学校をとおして知名度がアップしている。当館および桜町陣屋関連事業のリピーターになっている。	学校行事が秋に集中する傾向にあり、大規模校や複数校の対応に職員の配置が難しい。学校行事の把握が課題である。
31	芳賀	施設で	資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の社会科見学での利用(当館は市内から集められた【寄付等】古い農具や民具を保管しており、小学校の社会科見学に利用されている。【普段は無人の倉庫的な利用のみ】) ・社会科見学时に展示されている農具や民具の説明(地域の館内解説ボランティアの協力) ・児童の施設利用(学校の長期休業中の課題で「昔の道具調べ」のような内容が出題され、児童が当館を利用している。) 	平成24年度は小学校17校(うち市内15校)が来館した。子どもたちを通して当館の知名度がアップしている。夏休み実施の一般公開に家族で来館するなど年間利用者数増にも繋がっている。	学校行事が秋に集中する傾向にあり、ボランティアの協力は必須である。ボランティア協力者の確保が課題である。

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
32	芳賀	施設で	生涯学習センター	・サタデースクール ・親子自然教室	子どもたちとのコミュニケーションがうまくとれるようになった。	年々参加者(特に男の子)が減少している。
33	芳賀	学校で	図書館	・団体貸出 (図書館で選書した本【MAX150冊】を各学校に貸出し) ・ブックトーク (中学校に出向いて、中学2年生を対象にブックトークを開催) ・調べる学習コンクールの協力依頼	着実に図書館と学校との連携に繋がってきている。	学校司書教諭が忙しい。専任化が必要。
34	芳賀	学校で	図書館	・「図書館通信」配布 (小学生向けに図書館通信を作成、配布している。)	全児童へ配布したことで、児童のみならず保護者にも図書館を知ってもらうことができた。	普段の業務をこなしながらの作業となるため、サービスの質を落とさずスタッフの負担を軽減させることが課題。
35	芳賀	学校で	図書館	・「図書団体貸出し」 (町内小学校へ図書の団体貸出しを行う。)	教育長にも呼びかけを行っていただき、町内全小学校での実施が実現した。	汚損、破損、紛失になってしまいう本がある。また、学校毎の対応のため、貸出日や冊数にバラツキがあり、町内で統一感がない。
36	芳賀	不明	公民館	・「子ども議会」 (小・中学生【1年交互】を対象に議長・議員を選出し、議案【子どもたちから提出】について市長が答弁する。市議会と同様に開催される。)	議会の仕組みを知るだけでなく、将来の市政を担うという自覚をもつ。	
37	芳賀	不明	公民館	・「中学生みこし」 (市内中学校【9校】対象で、全7基の御輿を「夏祭り」【3日間開催】の中日のお祭り広場で運行する。各中学校で製作から当日運行役割に至るまで全ての役割を決め運行する。)	中学ごとに趣向を凝らした御輿を製作し、「夏祭り」に参加することで、ふるさと意識と連帯感を育むことができた。	生徒数の減少。
38	芳賀	不明	生涯学習センター	・チラシ等の配布依頼	学校を通じて周知された場合、参加者が多い。	
39	下都賀	施設で	公民館	・I地区公民館チャレンジ講座 (手作りパン、おいしいピザ)	参加者にとってチャレンジ講座を通じ、色々と学ぶことができたと思う。	
40	下都賀	施設で	公民館	・ふれあい楽級 (陶芸教室、家庭教育・思春期講座、星を見る会等)	公民館主催事業への理解も深まって、参加状況は良好である。	マンネリ化の防止及び学校外教育活動への参加マナーを高めたい。
41	下都賀	施設で	図書館	・社会科見学「公共施設を利用しよう」 (館内見学と児童の利用)	身近な公共施設の利用の仕方を知り、良さに気付き利用意欲を持つことができ、正しい利用ができるようになった。	大人数の見学及び、利用は他の利用者への迷惑がかかることもある。
42	下都賀	施設で	図書館	・学校図書事務職員研修会 (会場として会議室利用、講師として図書館スタッフを派遣)		
43	下都賀	施設で	図書館	・図書セット貸出し (学校より問合せがあり、図書館側である程度の推奨をしたうえで、学校側に決定してもらい貸出しをした。団体貸出しということで、一般より期間は長く、冊数も多くとってある。)	生徒の読書に対する関心が高まった。	読書嫌いな生徒にいかに関心を持たせるか。
44	下都賀	施設で	図書館	・学校への団体貸出し ・職場体験・見学等 ・児童の作品展示(図書館内)	学校や保護者に対して図書館の存在をPRすることができた。学校図書館にない資料を提供することで読書の幅を広げることにつながった。	貸出冊数を増やして子ども読書活動を支援していきたいが館の蔵書数に限りがある。
45	下都賀	学校で	公民館	・「家庭教育学級(思春期講演会)」を実施 (前期と後期に分け、中学校を会場として「思春期の性について」「こころと体を大切に」)	専門家の講演であるため、生徒にも保護者にもわかりやすく、大変勉強になっている。	生徒は全員参加で講演を聴くことができるが、保護者の参加率が低いときもあり、これからの開催では、多くの保護者に来て頂けるよう中学生と話し合い、工夫改善が不可欠である。

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
46	下都賀	学校で	公民館	・講演会 「親が子どもと心地よいコミュニケーションをとるために」	今回は近隣の小・中・高校のPTA研修も兼ねたので、多くの参加者がいた。	地域の方の参加が少ない。
47	下都賀	学校で	図書館	・小・中学校ともに教科書単元、調べ学習に対応 ・図書資料の配送・回収 ・学年集会等でのブックトーク実施 ・展示の貸出し	・図書資料の貸出1,519点 ・展示貸出5回 (平成24年度実績)	学校での更なる利用促進。
48	下都賀	その他	公民館	・備品の貸出し		
49	下都賀	その他	公民館	・児童・生徒向け公民館講座の学校へのチラシ配布 ・駐車場利用に際して学校との連携	学校にチラシを配布することにより、児童・生徒への周知が徹底され受講希望者が増えた。	駐車場利用の問題→公民館・学校行事との兼ね合い。
50	下都賀	その他	公民館	・生活科「まちたんけん」 ・総合学習の授業「生け花・茶道」施設の提供 ・家庭教育学級「講話・調理実習・運動・親子でバス研修等」 ・思春期講座 ・夏休み子ども体験教室	受講されている保護者は意欲的で満足している。夏休み子ども体験教室は大変好評であった。	学校の授業参観とは違うため、仕事を休んでまでの受講は難しい。なかなか理解されないことが多いのが現状。
51	下都賀	その他	図書館	・「おはなしの会」の案内チラシを作成(地域内の小学校とこども園へ送付)	「おはなし会」への児童の参加。	参加人数が少ない。(月によっては0人の時もあった。)→平成25年度2月から学童保育にも声かけをし、チラシ配布を行った結果、参加人数が増えた。
52	下都賀	その他	資料館	・小4 社会科「昔の暮らし」に対応させ、資料館内に『昔の道具』コーナーを新設 (資料館展示品を使った脱穀体験授業を開始)	平成24年度はPRのみ、25年度に複数校が活用予定。	
53	下都賀	その他	資料館	・小学校の施設見学の案内		学校側からスケジュールの連絡のみで、こちら側は何をどうしていいのかわからない。
54	塩谷南那須	施設で	図書館	・協議会を設置し、年2回の会議等を開催 (平成24年度より、相互の連携・協力を強化し、児童・生徒の読書活動を推進する目的で開催。協議会の構成員は、市立小・中学校の学校図書館担当教諭、図書事務員、教育委員会事務局【学校教育・生涯学習】図書館員となっている。)	意見交換等により、学校からの図書貸出しが増加。	学校からの依頼度をもっと増大させ、相互の連携・協力を強化させていきたい。
55	塩谷南那須	施設で	図書館	・移動図書 (町内の小学校6校、中学校2校計8校に対し、図書館から本の貸出しを行っている。学校の司書補、学校ボランティアと協力している。)		学校の図書室、移動図書だけでは蔵書に限りがあり、満足に提供できているわけではない。図書館をもっと利用してくれればよいのだが、部活などで図書館に来ることができない。
56	塩谷南那須	施設で	資料館	・「職場体験で生徒の受け入れ」(1日) (入館者の接客、施設の清掃など:中学校の生徒1名)	地元の施設における職場体験を実践。	
57	塩谷南那須	学校で	公民館	・中学校1学年親子活動 ～音楽が果たす心のやすらぎ～	命の尊さを親子で考えるよい機会となった。自尊感情が高められた。	保護者の参加が少なかった。
58	塩谷南那須	学校で	公民館	・K中学校教育講演会		
59	塩谷南那須	学校で	図書館	・学校図書室への支援 (図書館から月～金、学校図書室の環境整備と図書の貸出・返却等のお手伝いを行っている【3名】。)	図書室の整備も整いはじめ、利用する生徒も増えてきている。それに伴い、貸出しも増えてきている。	

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
60	塩谷 南那須	学校で	資料館	・小川の過去・現在・未来（15時間程度） （学習フェスタで成果を発表【小学校】）	日常生活している場所が「古代なすの国」を形成する重要な舞台であったことを知り、歴史、地域学習としてさらに郷土愛を育むことができた。	学校・先生側の負担が大きく、毎年継続して実施することは困難と思われる。
61	塩谷 南那須	学校で	資料館	・ふるさと学習（総合的な学習の時間） （鉄の採取と製鉄作業【中学校】）	身近なところに有用な資源が眠っていることに気づくとともに、それを利用し、文明を形作った古代の人々の知恵に驚きを感じている。	講話・学習以外での準備（炉作製、ふいごの作製砂鉄採取）に3ヶ月ほどかかり、今後の継続的な実施が困難。
62	塩谷 南那須	学校で	資料館	・歴史学習と歴史料理体験学習 （【小学校】）	身近な歴史の理解とそれを核とした小学生、大学生（東京国士舘大学）の交流が行えた。	小学生の登下校がマイクロバス送迎で、時間的に制約があり、さらに大学生の送迎にも時間、手間がかかる。
63	那須	施設で	公民館	・親子料理教室 （クックマンによる親子での料理教室）	学校側が動員をかけてくれるので、実施した学校の児童及び保護者は多数出席している。	限られた予算の中で、毎年各学校を順番に回って、対象校を決めている。小学校1年生を対象としているので、恩恵にあずかれない子どもも出てくる。
64	那須	施設で	公民館	・寿大学のプログラム （小学校と2回交流会を実施した。その際に学校担当者と施設の担当で、内容等についての打合せを何回か行った。） ・家庭教育学級の打合せ実施	世代間交流事業を通して、子どもたちが遊ばないような遊びを教えて、有意義な活動ができた。	参加率が良くない（土、日曜に開催している）。
65	那須	施設で	公民館	・「あいさつ運動啓発ポスターコンクール」 （管内小・中学校児童生徒によるポスターコンクールを実施。作品は公民館内に展示し、優秀作品はカレンダーとして管内全戸に配布している。）	毎年カレンダーが届くのを楽しみにしている家庭も多い。	運動啓発の一助にはなっているが、作品出品者は年々減少している。
66	那須	施設で	公民館	・「ふれあい交流会」 （子どもたちの体験活動の機会として、地域内の子どもたちと高齢者、施設利用者が一堂に会して、日頃の学習成果の発表や交流を行った。）	地域の高齢者と子どもたちとの交流の機会となっている。	
67	那須	施設で	図書館	・社会科見学まちたんけんの受け入れ ・マイチャレンジインターンシップの受け入れ ・花いっぱい運動（近隣中学校との連携事業） ・この本を読んでみてコンテスト20 （市内小中学校との連携事業）	社会科見学まちたんけんに参加した小学生やマイチャレンジに参加した中学生に、直に図書館を見てもらえた。	1回に受け入れる人数に制限があり、拡大していくことが難しい。
68	那須	施設で	博物館	・小学4年生の見学受け入れ、解説		館の存在をどう周知していくか。
69	那須	施設で	博物館	・常設展示での学習		
70	那須	施設で	資料館	・施設の見学 （宿泊学習で同施設内のホテル【シャトーエスポワール】に宿泊した小・中学生が施設の見学をする。） ・小学生交流事業 （伊原市の小学生を案内する。）		今後、子どもたちが喜びそうなアイデアを生み出していく。
71	那須	施設で	資料館	・小学校の社会科見学の受け入れ （栃木県立なす風土記の丘資料館【那珂川町】と連携して、那須・塩谷地区を中心に県内の多数の小学校を受け入れている。）		
72	那須	施設で	資料館	・昔のくらし体験		
73	那須	施設で	資料館	・中学生の総合的学習 ・小学生の社会科、地域学習 ・中学2年のマイチャレンジ ・教員の現職研修 ・教員の研修	児童・生徒・教員とも、郷土の歴史、文化等に興味を強く持つようになりつつある。郷土愛の育成につながっている。	

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
74	那須	学校で	公民館	・家庭教育学級を開催 (小学生の子どもを持つ親を対象に、子どもを理解する心と現代社会の情報とどうつき合うかを学ぶために実施している。【小学1年生の保護者を対象】)	親同士の交流が図られ、子育ての視野が広められる。	参加率が良くない(土、日曜に開催している)。
75	那須	学校で	公民館	・音楽鑑賞教室 (小学校体育館にて、バイオリン、チェロ、フルート、ピアノのプロによる演奏会)		
76	那須	学校で	公民館	・家庭教育学級の閉講式 (家庭教育学級の目的等話す。その他、連絡調整に施設の担当者が出向いた。)		
77	那須	学校で	公民館	・「昔あそび」(交流事業) (M小学校の1,2年生の生活科の授業に、長寿会の会員が参加している。)		
78	那須	学校で	公民館	・S地区産業文化祭 (今年45回目を迎える。会場はS小学校に協力を得て、校庭、体育館を借用して実施している。体育館内ではS小学校、F小学校、S中学校の児童・生徒の作品の展示を依頼している。また、同時に行われるもみじ祭りにおいてはS小の雅楽クラブの発表も依頼している。準備では体育館のシート敷き、机、椅子の準備を学校の協力を得て実施している。)	子どもたちの作品にふれ、健康に成長していることがわかり、地域ぐるみで文化祭を盛り上げていただいている。	
79	那須	学校で	公民館	・家庭教育学級を開催 (小学校の全保護者を対象。企画、運営のために各学年から委員を選出している。年間7～10回程度の事業計画で、保護者同士の仲間づくりができるようなものや、親子で参加できるもの、子育てに役立つような講演会など、工夫した内容を計画し、社会教育指導員が講師や会場、募集などサポートしている。)	特に1年生の保護者にとっては、情報交換の場になっている。また、授業参観以外に(学校に)行く機会が増え、学校を身近な存在にとらえるようになった。	働いている保護者が多いため、講座等に参加するのが難しい。保護者からの意見を取り入れて日程等を決めていく工夫が必要。
80	那須	学校で	公民館	・M中学校生徒との高齢者交流会の実施 (核家族化の中学1年生達が、各公民館【コミュニティ】地区内の高齢者と交流し、すいとんづくりや炭酸まんじゅうづくり、もちつき、グランドゴルフを体験する。)		毎年、中学1年生の担任、主任が代わるので、この交流事業の引継がうまくされていない年があり、公民館側からの調整が重要。
81	那須	学校で	公民館	・「花いっぱい運動」 (管内小・中学校に肥料、花苗など必要なものを配布し、花いっぱいの環境作りを支援した。小学生、中学生、高齢者がともに活動を行うことで交流を図るようにしている。)	・各校からの希望によって必要物品を配布しているので、より一層の支援になる。 ・小学生、中学生、高齢者との心の交流が図れた。 ・学校目標「地域を愛し愛される生徒」の具現化が図れ、地域の一人としての自覚が持てた。保護者の評価も高い。	・子どもが地域との関わりを持つ機会になるので、児童の祖父母にも広げたい。
82	那須	学校で	公民館	・「おまつりをしよう」 (校内で祭りを開催し、児童手作りの模擬店での買い物ゲーム等を通じ、地域・施設との交流を深め、豊かな心を醸成した。)	児童の熱心に取り組む様子が見られ、工夫を凝らした祭りが開催できた。地域住民との交流が図れた。	
83	那須	学校で	公民館	・「昔の遊びを教わろう」 (地域の高齢者や保護者と交流することにより、大人の知恵や昔の遊びの良さに気づくことを目的に実施した。)	手作りの楽しさ、温かさにつながることで、保護者との交流が図れた。	時期的(1/23)に高齢者の参加を多く望めない。
84	那須	学校で	公民館	・「おじいさん、おばあさんに昔の遊びを教わろう」 (高齢者と一緒に昔の遊びをして交流することで、高齢者を尊敬する心や自ら学ぶ心を育てることを目的に実施した。)	児童が自主的に活動に取り組み、積極的に地域との関わりをもとうと考えるようになった。	

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
85	那須	学校で	図書館	・図書を受け入れ・修理 (図書館ボランティアと図書館職員が学校に出向いて行う。また、読み聞かせを行う場合もある。)	図書館での知識を生かし、学校図書室のレイアウトや分類の分類番号の整理などを行い、使いやすい図書館になっていると大変喜ばれている。	現在は学校に出向く回数が多いので、もう少し出向くことができれば連携が取りやすくなるのではと考えている。
86	那須	学校で	図書館	・貸出文庫 (読書活動推進のため、小学校各学級に1ボックス【30冊ずつ】貸出し。【黒磯地区小学校14校各学級＋不登校通級学級1クラス】年3回実施している。)	読書活動普及に役立っている。特に特別支援学級からは細かい要望が届き、それに答えるべく努力している。	何十クラスもあるので、全てには応えられず、特別支援学級を優先に選定している。
87	那須	学校で	図書館	・年4回、3年生以上に図書館資料を学校に配達 ・1,2年生は、図書館に直接来館して貸出し		選書。
88	那須	学校で	博物館	・開拓体験(水くみ、モッコかつぎ) ・昔の暮らし体験		
89	那須	学校で	資料館	・出前講座の実施		
90	那須	学校で	資料館	・小・中・高の出前授業 ・小学校での記念行事時の講話		
91	那須	その他	公民館	・移動教室 (足利市ココファームワイナリー見学他)		
92	那須	その他	公民館	・「スキー教室」 (スキー体験学習を通して、互いに励まし合い助け合って、集団行動における規律ある態度を身につけることを目的に実施した。)	学校教育と地域指導者との連携。児童との交流や学校教育への理解が深まった。地域の指導者から技術及びマナーを学び、ふれあう機会をつくることができた。	
93	那須	不明	公民館	・「A地区学社連携・融合推進会議」 (子どもを取り巻く環境・地域の安全確保等について意見交換等を実施した。また、警察官の講話により、子どもの安全環境等の現状を知り、問題を共有した。)		各団体との顔合わせの場になっている。もう少し建設的な意見交換ができるとよい。
94	那須	不明	公民館	・「野菜を育てよう」 (地域の農家から野菜の作り方を教わり、自然の大切さや収穫の喜びを共有し、生産者や食べ物に感謝する心を育てることを目的に実施した。)		放射線の影響を考慮して、職員が中心となり指導を行った。25年度は農家の方の技能を生かして指導してもらおう。
95	那須	不明	公民館	・「地域の高齢者にどんど焼きに飾るまゆだまの作り方を教わろう」 (地域の高齢者と一緒にまゆだまを作りどんど焼きや生活の様子を聞くことによって、知識を高め、高齢者を尊敬する心を育てることを目的に実施した。)	昔の人の知恵や生活を知り、今の生活の便利さを感じることができた。学校外の指導者を活用することで、児童が地域に目を向ける機会になった。	
96	安足	施設で	公民館	・人権教育講演会を開催 (中学校では年1回、学校、PTA、公民館の合同で開催している。)	学校を通して連絡をするため、関心が高くなり、参加者も毎年まとまっている。	
97	安足	施設で	博物館	・博物館学校利用推進事業 (市内全小学校3,4,6年生が博物館に来館し、社会科の学習を行う。)	子どもたちが市内の歴史や偉人について興味を持ち、愛郷心育成の一助となっている。	解説ボランティアの不足。
98	安足	施設で	美術館	・作品解説ワークショップ (来館した生徒に美術作品の解説やワークショップをとおして芸術・文化にふれる機会を提供する。)		美術館と学校の日程調整。
99	安足	施設で	美術館	・職場体験学習受け入れ	生徒が社会体験をすることにより視野を広げることができる。美術にふれることで文化的体験をすることができる。	美術館と学校の日程調整。
100	安足	施設で	資料館	・小学生が館内を見学	「化石」に興味・関心を寄せてもらった。	時間配分、解説ボランティアの育成と増員。
101	安足	施設で	資料館	・中学生マイ・チャレンジ事業で受け入れ (館の運営に携わってもらった。)	館の運営に対する理解、生徒の学習・体験活動の充実。	

番号	地区	実施場所	施設区分	事例	成果	課題
102	安足	施設で	生涯学習センター	・校外学習等の利用 (中学校が本施設を拠点として授業を行っている。)		
103	安足	学校で	公民館	・対象地域の敬老会の実施 (F小学校の運動会の昼休みを使い、敬老会を行う。)	小学校、公民館、町会の一体連携により、運動会への参加人数の増加と小学生の敬老精神を養える。	残暑厳しい中での開催となるため、暑さ対策が必要。
104	安足	学校で	公民館	・子ども対象とした学級の募集(小学校) (連絡をクラス担任の先生からしてもらっている。)		子どものみの事業には多数の参加があるが、親子教室の参加は少ないのが現状。
105	安足	学校で	公民館	・学級・講座での学校施設の使用 ・星空観察会(小学校校庭) ・ドッジボールで遊ぶ(小学校体育館)	子どもたちが慣れている場所なので落ち着いて講座に臨むことができる。	場所を借りるだけとなってしまう、人的な交流が少ない。
106	安足	学校で	公民館	・昔の遊び (小学校内において、児童と地区高齢者がふれあう機会として、開催している。コマ回しやおはじきなど、10種類程度の遊びやゲームを用意し、子どもたちは日常接する機会の減っている地区の高齢者に教わりながら、一緒に体験する。)	地区内の高齢者が知り合いになる。	孫が通学中の祖父母の参加は多いが、それ以外の高齢者の参加は少ない。
107	安足	学校で	公民館	・教育講演会と家庭教育学級教育講演会(K小学校共催で行っている。)	人が集まり難い家庭教育学級に多くの受講者が参加する。	開催校以外の参加者が少なくなってしまうため、残り2校との連携を探る必要がある。
108	安足	学校で	公民館	・Y小学校PTA行事 (足利工業大学ロボット出前講座) 演題: 「これからのロボットとわたしたち」	二足歩行型のロボットやヘリコプター型ロボットの動作を実際に見ることにより、今後の生活へのかかわりを考えることができた。	企画の中心員がPTAのため、内容によっては、地域住民の参加しがたいものがある。
109	安足	学校で	公民館	・「親おや?!ゼミナール」を開催 (小学校や中学校と共催)		
110	安足	学校で	公民館	・公民館における学級・講座 ・小学校週5日制事業の合同事業 (平成25年度は3回実施【人権学習、バター作り、クリスマスカード作り】予定。打合せで事業の方向性を決定し、公民館で講師の選定をし、小学校から児童を通じ、地域の各家庭に事業の周知を行う。)	公民館単独で実施するよりも大規模な事業を展開することができる。	公民館と小学校それぞれの目的が合致する場合にのみ合同事業という形をとっているが、地域の他の機関も入れた包括的なネットワークを形成していきたい。
111	安足	学校で	美術館	・学芸員による出張授業 (美術作品の解説や学芸員という職業についての出張授業を行い、生徒に芸術・文化をふれる機会を提供する。)		美術館と学校の日程調整。
112	安足	学校で	資料館	・「化石みがき」の体験 (放課後子ども教室)	「化石」に興味・関心を寄せてもらった。	実行委員会側が継続的な事業として毎年実施してくれること。時間配分。
113	安足	その他	公民館	・学校の行事を公民館便りで地域内住民にPR (リサイクル事業への協力、運動会や主な学校行事の紹介、入学生徒数や卒業生生徒数などの紹介)	地域住民に知られるようになった。地域の理解度アップ。児童および家族が公民館事業に参加するようになった。	
114	安足	その他	公民館	・ふるさと山登りハイキング(石尊山) (毎年11月23日勤労感謝の日を実施。O小学校全校生徒とその保護者、PTA、地域住民を対象)	毎年100名位の参加があり、盛大に行われている。	雨天の場合の代わりとなる行事が組みにくい。
115	安足	その他	公民館	・八木節後継者育成事業 (主に八木節振興センターと連携し、学校と八木節保存会が連携。八木節保存会の方々に講師をお願いして、毎年行っている。小学3~6年生対象、定員60名で行っている。)	ふるさと祭り、地区体育祭、市民文化祭で八木節発表。	指導者の高齢化。

③ 近接している利点

近接している利点についての記述を、内容等別に記述する。

①児童・生徒に関すること（学習意欲や理解・地域や施設への関心・安全面 等）

- ・児童が徒歩で来館できる。（※複数回答）
- ・身近な施設として親しみを持ってもらえる。（※複数回答）
- ・生徒が自ら通って来られる。
- ・教科書に掲載されることの少ない地域の歴史を密に知ることができる（資料館）。
- ・社会科見学の後日、資料館で実施する体験教室に参加しやすい。
- ・体験活動に参加した児童が、個人的に博物館を訪れてその他の実物資料を気軽（距離的にも・料金的にも）に見学できるため、歴史学習に対する児童の興味・関心を一層高めることができる。
- ・再来館も容易なため、授業で活用しやすい。
- ・近くの施設であることから馴染みがあり、距離的に利用しやすい。
- ・美術館に課外授業で生徒が利用しやすい。
- ・会場である公民館に近い学校の児童を対象に実施した為、交通等の利便性にあたり、利点があった。
- ・生徒が学校から当図書館まで安全に来られる。
- ・他校は市バスを利用して見学できるが、徒歩で来られる。
- ・市内の小学校は、バスの利用日が割り当てられており、日時の変更に自由がきかないが、近隣の学校は徒歩での来館が可能のため、利用しやすい。
- ・小学生と出会った時に気軽に質問相談ができる。
- ・放課後の来館、利用者が多い。
- ・公民館と学校で職場が近いことで実際に働いている人の顔を見ることができる。
- ・学校の先生や子どもたちに公民館が身近だと思ってもらえる。
- ・子どものうちから、市内に博物館があることを意識づけできる。
- ・生徒に交通費がかからない。

②教員と職員に関すること（交流・打合せ・日程調整・連絡 等）

- ・顔を見て話し合える点は、大きな成果が期待できる。（※複数回答）
- ・日頃から面識があり、応援協力、相談体制が図りやすい。（※複数回答）
- ・連絡、調整が直ぐにできる。（※複数回答）
- ・打ち合わせや連携が密にできる。
- ・直接、打合せができ、準備を進められる。
- ・遠方であっても興味のある生徒は職場体験で来館しているので、距離の問題は大きなことではないことと思われる。しかし、それぞれの来館する際の安全に関する学校との共通理解、また、緊急時にいかに迅速に対応できるかなど、近接していた方が安心できる部分が多いように感じる。
- ・博物館見学を敬遠する学校の理由の一つに交通手段をあげる学校が多い。その点、近隣小学校の場合、歩いて見学に来ることができるため、見学日程調整をつけやすい。
- ・施設と学校、地域施設が事業内容の相互協力や情報の共有化等で、開かれた学校づくりにつながっていると思う。
- ・小学校と密に連絡が取れ、児童との連絡がスムーズに行える。
- ・情報（地域の子どもの）が入る。

- ・常に情報交換がスムーズに行える。
- ・当公民館には、コミュニティ推進協議会が併設しており、コミュニティ総会や文化祭等に、積極的に参加してもらえる。
- ・高根沢町には、分館を含め3館、図書館があり、近くに小・中学校があり、細やかな対応ができる。
- ・日頃より、面識があり、応援、協力、信頼関係が構築されているからこそでき上がった事業である。
- ・参加人数が把握できるところが利点である。
- ・連絡が取りやすい。
- ・子どもたちが学校でどんな本を読んでいるのか先生から直接聞くことができるので、選書をする際に助かる。
- ・容易な訪問での取材等。
- ・準備や相互の連携がスムーズに行える事。
- ・すぐに足を運べる。
- ・短時間でのお行き来ができ、空いた時間を有効に使うことができる。
- ・連絡が取りやすい。
- ・連絡が容易であり事業の質を高めることにつながっている。

③距離や資料・備品・設備等に関すること

- ・他校に貸出しをしても、事前に予約ができていれば、返却後、即日貸出しをすることができる。
- ・5年生の学習内容である「流れる水のはたらき」の実験・観察セットを事前に校庭につくる場合、近隣であればその設置に出向くことが比較的容易にできる。
- ・事前打ち合わせや、資料の貸出しにも双方の訪問がしやすい距離であることのメリットは大きい。
- ・駐車場の連携ができる。
- ・近隣小学校であれば、貸出し・返却時に来館する時間を調整しやすい。
(空き時間や長い休み時間等でも可能)
- ・図書室の利用がしやすい。
- ・互いの事業の際にグラウンドを駐車場として借用できる。
- ・開催場所も公民館地域内であり、大人数であっても人員の輸送等に時間がかからない。

④その他

- ・往復封筒で受講生とやりとりが可能。
- ・平成24年度は近接している中学校からの受け入れがあったが、市内全中学校を対象に受け入れをしている。
- ・御殿山を背景に、佐久山の歴史を共有し、自然豊かな環境の中で一体感を持ちながら老若男女が学んでいくことができる。